

# 報告 4 担任の先生から見た子どもの生活態度の変化

## 子どもの生きる力に変化はみられただろうか？

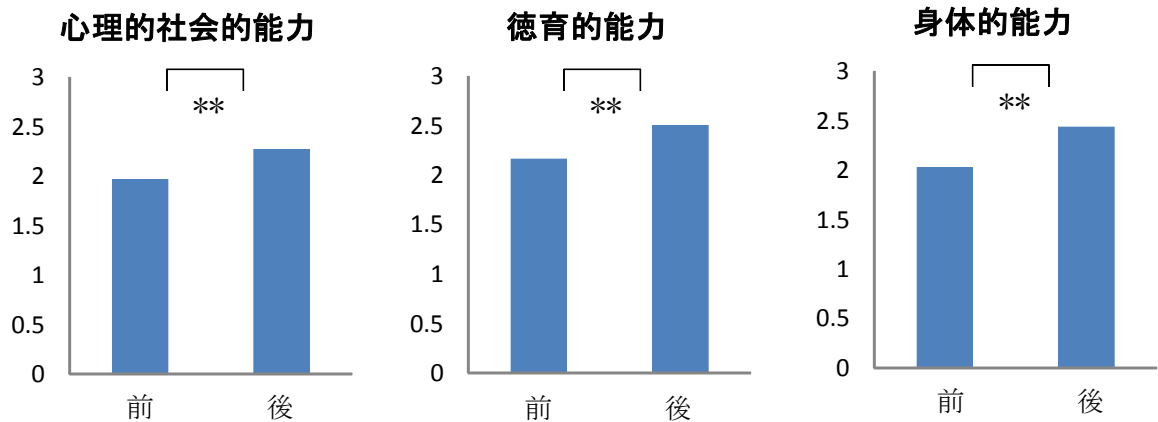
### 概要

運動遊びを実施することによって、子どもの日常生活における態度に何らかの変化はあっただろうか。そこで、担任の先生から見た子どもたちの変化を、運動遊びを取り入れる前と後で比較した。その結果、運動遊びを取り入れた後のほうが全てのカテゴリで得点が向上していた。先生の主観が入っているが、子どもを肯定的に見ることができる、頑張りを評価できる姿勢が身についたと解釈することもできるだろう。

### 実験の実施について

IKR評定用紙（生きる力評定用紙）を用いて、担任の先生に子どもたちの姿を回答してもらった。回答は、運動遊びを実施する前（6～7月）と後（1月）に行った。IKR評定用紙は簡易版を用いた。回答は、先生がクラス全員を客観的に評価するよう依頼した。調査対象の園は59園である。

### 結果



有意差のあった項目の測定値は以下の通りである。心理的社会的能力（前vs. 後：2.0±0.1 vs. 2.3±0.1），徳育的能力（2.2±0.1 vs. 2.5±0.1），身体的能力（2.0±0.1 vs. 2.4±0.1）。

(\*\*： p < 00.1)

### ポイント

運動遊びを実施する前後では、全てのカテゴリにおいて得点が向上していた。担任の先生が子どもたちの成長を実感していることが表れたデータである。6ヶ月ほどの期間があるため、成長による様々な変化が紛れている。運動遊びの実践によるものだけとは言えないので、今後、いくつかの実験モデルを組んで検証していく必要がある。ただ、先に報告した内容からも積極的な運動遊びの実施が子どもの運動能力を向上させることは間違いないので、是非とも日々の保育に取り入れてほしい。

上位能力	下位能力	調査項目
心理的 社会的 能力	非依存	いやなことは、いやとはっきり言える 小さな失敗をおそれない
	積極性	自分からすすんで何でもやる 前向きに、物事を考えられる
	明朗性	だれにでも話しかけることができる 失敗しても、立ち直るのがはやい
	交友・協調	多くの人に好かれている だれにでも仲よくできる
	現実肯定	自分のことが大好きである だれにでも、あいさつができる
	視野・判断	先を見通して、自分で計画が立てられる 自分で問題点や課題を見つけることができる
	適応行動	人の話しをきちんと聞くことができる その場にふさわしい行動ができる
	自己規制	自分かつてな、わがままを言わない お金やモノのむだ使いをしない
	自然への関心	花や風景などの美しいものに、感動できる 季節の変化を感じる事ができる
	まじめ勤勉	いやがらずに、よく働く 自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる
徳育的 能力	思いやり	人のために何かをしてあげるのが好きだ 人の心の痛みがわかる
	日常的行動力	早寝早起きである からだを動かしても、疲れにくい
	身体的耐性	暑さや寒さに、まけない とても痛いケガをしても、がまんできる
身体的 能力	野外技能・生活	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える 洗濯機がなくても、手で洗濯できる

「生きる力」	心理的社会的能力	非依存 積極性 明朗性 交友・協調 現実肯定 視野・判断 適応行動
	徳育的能力	自己規制 自然への関心 まじめ勤勉 思いやり
	身体的能力	日常的行動力 身体的耐性 野外技能・生活